



%Status 値の操作

Version 2023.1
2024-01-02

%Status 値の操作

InterSystems IRIS Data Platform Version 2023.1 2024-01-02

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

%Status 値の操作.....	1
1 ステータス値の操作の基本	1
1.1 例	1
2 1 つのステータス値で報告される複数のエラー	2
3 ステータス値を返す方法	2
4 詳細情報	3

%Status 値の操作

多くの InterSystems クラスは、%Status データ型クラスを使用してステータス情報を表し、それらのメソッドは、成功またはエラーを表す %Status 値 (ステータス) を返します。ステータスが 1 つのエラー (または複数のエラー) を表す場合、エラーに関する情報もステータス値に含まれます。

ユーザがユーザ独自のステータス値を返すこともできます。

このページでは、ステータス値とその操作方法について説明します。

1 ステータス値の操作の基本

前述したように、多くの InterSystems クラスのメソッドはステータス (成功またはエラーを示す) を返します。例えば、%Library.Persistent の %Save() メソッドはステータスを返します。このようなメソッドでは、戻り値を必ず取得してください。その後、ステータスを確認して適切に処理を続行します。基本的なツールは以下のとおりです。

- ・ ステータスが成功またはエラーのどちらを表すかを確認するには、以下のいずれかを使用します。
 - \$\$\$\$ISOK マクロと \$\$\$\$ISERR マクロ。これらはインクルード・ファイル %occStatus.inc で定義されています。このインクルード・ファイルは、すべてのオブジェクト・クラスで自動的に利用可能です。
 - \$SYSTEM.Status.IsOK() メソッドと \$SYSTEM.Status.IsError() メソッド。これらは特にターミナルで便利です (ターミナルではマクロを使用できません)。
- ・ エラーの詳細を表示するには、\$SYSTEM.OBJ.DisplayError() または \$SYSTEM.Status.DisplayError() を使用します。これらのメソッドは、互いに同等です。出力は現在のデバイスに書き込まれます。
- ・ エラーの詳細を含む文字列を取得するには、\$SYSTEM.Status.GetErrorText() を使用します。

1.1 例

以下に例を示します。

```
Set object=##class(Sample.Person).%New()  
Set object.Name="Smith,Janie"  
Set tSC=object.%Save()  
If $$$$ISERR(tSC) {  
    Do $SYSTEM.OBJ.DisplayError(tSC)  
    Quit  
}
```

以下に、\$SYSTEM.Status.GetErrorText() の使用法を示す部分的な例を示します。

```
If $$$$ISERR(tSC) {  
    // if error, log error message so users can see them  
    Do ..LogMsg($System.Status.GetErrorText(tSC))  
}
```

注釈 一部の ObjectScript プログラマは、文字 t を接頭語として使用して一時変数であることを示すため、コード・サンプルで “一時ステータス・コード” を意味する tSC が変数名として使用されることがあります。この規則を使用するのは自由ですが、この変数名に特別なことは何もありません。

2 1 つのステータス値で報告される複数のエラー

1 つのステータス値が複数のエラーを表す場合、前述の手法で得られるのは最後のエラーの情報のみです。ステータス値で表されるすべてのエラーに関する情報を取得するには、エラーの詳細の配列を (2 つ目の引数として参照によって) 返す `$SYSTEM.Status.DecomposeStatus()` を使用します。以下に例を示します。

```
Do $SYSTEM.Status.DecomposeStatus(tSC,.errorlist)
//then examine the errorlist variable
```

変数 `errorlist` は、エラー情報が含まれる配列です。以下に、部分的な例を示します (読みやすいように人為的に改行が追加されています)。

```
ZWRITE errorlist
errorlist=2
errorlist(1)="ERROR #5659: Property 'Sample.Person::SSN(1@Sample.Person,ID=)' required"
errorlist(1,"caller")="%ValidateObject+9^Sample.Person.1"
errorlist(1,"code")=5659
errorlist(1,"dcode")=5659
errorlist(1,"domain")="%ObjectErrors"
errorlist(1,"namespace")="SAMPLES"
errorlist(1,"param")=1
errorlist(1,"param",1)="Sample.Person::SSN(1@Sample.Person,ID=)"
...
errorlist(2)="ERROR #7209: Datatype value '' does not match
PATTERN '3N1'"-"2N1'"-"4N'"_"$c(13,10)"_ ">
ERROR #5802: Datatype validation failed on property 'Sample.Person::SSN',
with value equal to """"
errorlist(2,"caller")="zSSNIsValid+1^Sample.Person.1"
errorlist(2,"code")=7209
...
```

各エラー・メッセージをログに記録したい場合は、前述のロギングの例を以下のように変更できます。

```
If $$$ISERR(tSC) {
  // if error, log error message so users can see them
  Do $SYSTEM.Status.DecomposeStatus(tSC,.errorlist)
  For i=1:1:errorlist {
    Do ..LogMsg(errorlist(i))
  }
}
```

注釈 `$SYSTEM.Status.DecomposeStatus()` を再び呼び出して同じエラー配列を渡すと、新しいエラーが配列に付加されます。

3 ステータス値を返す方法

ユーザがユーザ独自のカスタム・ステータス値を返すこともできます。ステータス値を作成するには、以下の構文を使用します。

```
$$$ERROR($$$GeneralError,"your error text here")
```

または、以下も同じ意味です。

```
$SYSTEM.Status.Error($$$GeneralError,"your error text here")
```

以下に例を示します。

```
quit $SYSTEM.Status.Error($$$GeneralError,"Not enough information for request")
```

他のエラーに関する情報を含めるには、`$SYSTEM.Status.AppendStatus()` を使用してステータス値を変更します。以下に例を示します。

```
set tSC=$SYSTEM.Status.AppendStatus(tSCfirst,tSCsecond)
quit tSC
```

4 詳細情報

詳細は、`%SYSTEM.Status` クラスおよび `%Library.Status` クラスのクラス・リファレンスを参照してください。

